

〔事例報告〕

「海舟・龍馬思索の道」紹介映像製作 — “プロジェクト1” まつり活動E班の取り組み —

近藤 正一*, 江越 充*

*日本文理大学工学部建築学科

Production of a Video Introducing “The Road in Which Kaishu and Ryoma Contemplated” — “Project 1” Festival Activities Group E —

Shoichi KONDO*, Mitsuru EGOSHI*

*Department of Architecture, School of Engineering, Nippon Bunri University

Abstract

“Project 1” Festival Activities Group E worked to produce a video introducing “The Road in which Kaishu and Ryoma contemplated” with locals. By creating a video based on the history of the region, the project is expected to have an educational effect in promoting active learning among students.

キーワード：プロジェクト1, 地域の歴史, 映像制作, 能動的学修

Keywords : Project 1, regional history, video production, active learning

1. はじめに (本事例の実施に至るまでの背景)

建築学科のカリキュラムにプロジェクト系科目が登場するのは平成23年度である。それまで設置されていた土木コースを発展させた環境・地域創生コースが発足し、新たなコース選択必修科目として「プロジェクト演習1」は地域活動を、「プロジェクト実習」は祭り活動に取り組みすることで、地域づくりについて学ぶ科目として登場した。しかし、いずれも1年前期(2単位)の科目であり、同時に3年前期に開講された「環境・地域創造演習」(2単位)との連携・連続性はまだなく、現在の建築学科の看板科目として1年から3年まで幅広く継続的に様々な地域プロジェクトに取り組み卒業研究へとつなげるこ

とで地域創生人材を育成するプロジェクト系科目の整備は、平成26年度の「プロジェクト1(地域づくり実践入門)」「プロジェクト2(地域づくり実践応用)」「プロジェクト3(環境・地域創造演習)」(3年通年・2単位)の開講を待たねばならない。しかし、当初「プロジェクト1」は「プロジェクト演習1」を継承し「プロジェクト実習」は清正公鶴崎二十三夜祭と直結した活動であったため、その後も平成29年度まで併存し続け、ようやく平成30年度に「プロジェクト1」に地域活動と祭り活動が統合され現在のかたちとなった。ところが早くもその2年後、令和2年度にはいわゆるコロナ禍の状況となり、各地の祭りが中止もしくは大幅に縮小され、「プロジェクト1」の祭り活動は他の活動に教育機会の代替を求める必要に

迫られた。以上が、本事例の実施に至るまでの背景である。

2. 本事例の目的と内容

2-1 取り組み概要

建築学科1年生専門教育科目「プロジェクト1」の祭り活動の代替として、NPO法人鶴崎文化研究会（理事長野村廣幸氏）との協働により、佐賀関～鶴崎～野津原を経由するルート「海舟・龍馬思索の道」（図1）の紹介動画（20分程度）を製作した。地域についての学修～調査報告～実地集録～編集～発表・振り返りまでを取り組みの範囲とし、とくに歴史文化に詳しい地域住民との交流・コミュニケーションの中で、これまであまり知られていなかった地物・遺構の価値を学生たちが手分けをして自身の言葉で表現し映像として記録した。



図1 「海舟・龍馬思索の道」パンフレット

2-2 取り組みの目的

多くの学生は、これまでの人生において、何を拠り所として学び・働くのかを意識する経験がまだ十分ではなく、本学の標榜する人間力教育の中でもとくに、計り知れないが他と同等に重要な観点とされる「心の力」と「職業能力」を育成するための課題がとりわけ初年次教育に必要であると考えている。したがって、地域住民との協働の中で、地域について学び興味を抱き、自らの問題として地域に対し共同作業により能動的に貢献する経験を通して、心の力(相手をリスペクトし己を克服する能力)および職業能力(周囲との関係を意識しながら自らの能力を研鑽しかつ存分に発揮し続ける能力)を涵養することを本事業の目的とした。

2-3 期待される効果

3つの効果を期待し、本事例に取り組んだ。まず、①学生の成長である。先に挙げた能力涵養のほか、映像技術も身につくと思われる。近年、建築設計のプレゼンテーションに動画が活用される機会が増えており、今回の課題が後学のためになることは間違いない。次に、②若手教員の育成である。今回のプロジェクトメンバーはベテラン教員と若手教員の組み合わせであり、共にプロジェクト活動を実践する中でこれまで蓄積されたノウハウの共有化が期待できる。そして、③地域の期待に応える効果である。今回の課題対象地域は、深刻な過疎化が進行中である佐賀関地区・野津原地区をエリアに含んでおり、地域問題に対応した活動を通じ、地域の一助と成す可能性が期待できる。

2-4 成果の教育・社会への還元方法

本事例の対象とする佐賀関～鶴崎～野津原を経由するルート「海舟・龍馬思索の道」は、幕末の1864年、長崎に集結する米英伊蘭4カ国連合艦隊の長州への報復攻撃を止めさせるため、勝海舟と坂本龍馬等一行が幕府の命を受けて旅した肥後街道の一部である。「海舟・龍馬思索の道」を大分市の新しい観光ルートとすべく野村氏らにより「海舟・龍馬思索の道」顕彰講演会等の計画がなされており、学生たちの制作した映像が様々なかたちで利用されることで、本事例の成果が社会へ還元されると考えている。また、本事例は地域との協働による実践教育であり、課題に取り組んだ学生が地域問題を他人事ではなく自分の問題として捉える契機となることが期待される。

2-5 プロジェクト実施体制

NPO法人鶴崎文化研究会（野村廣幸氏・栗田弘一氏）・さのせきボランティア協会（越美智子氏・後藤英文氏）・鶴崎ボランティアガイドクラブ（安部博史氏）・野津原ボランティアガイド協議会（戸次富造氏）のご協力のもと、本学教員（担当：近藤・木村・江越、協力：山内・吉村）が本活動を希望した学生24名の学修・調査報告・集録・編集・発表・振り返りを指導しプロジェクトを実施した。

3. 実施計画・方法

3-1 (1回目：2コマ) 課題説明

地元の歴史文化についての講義(図2)を受け興味を促すとともに、地域住民の志の高さ、日本文理大学およ

び学生への期待感を各自の問題として受け止めさせた。その上で、「海舟・龍馬思索の道」に関連する地域の歴史、地物・遺構の価値等について、アクティブ・ラーニングし、レポート①としてまとめる課題を宿題とした。

した(図4・図5・図6)。録画機材は各自の携帯電話を使用した。各自で収録した動画を編集(不要部分を削除)し、クラスルームへ提出する作業を宿題とした。

プロジェクト1・E班「海舟・龍馬思索の道」紹介映像制作 キックオフ

授業・研究



幕末に、勝海舟一行が旅した道を広く多くの国民に知っていただくための活動に取り組んでおられるNPO 法人鶴崎文化研究会 理事長 野村 廣幸 氏をお招きし、「鶴崎5つの時代」について特別講義をたまりました。今回をキックオフとして、今後5週間かけて二十数名の1年生有志学生たちが「海舟・龍馬思索の道」紹介映像制作ワークに取り組んでいきます。どのような映像ができあがるか、楽しみです。(近藤・木村・江越)

図2 1回目の講義の様子

3-2 (2回目:2コマ) レポート発表会の実施 およびグループ分け

調査報告についての野村氏ら歴史文化に詳しい地域住民との交流・コミュニケーションを通じて「学び」・「気づき」を得るとともに、グループ・担当を確定した(図3)。その上で、現地ワークショップ当日までに、各自で台詞を考えグループで情報共有してくる宿題を課した。

「海舟・龍馬思索の道」紹介映像制作班 名簿

協力:NPO法人 鶴崎文化研究会

氏名	課題説明+宿題発表 1回目(11/9) 3時間	レポート発表会+グループ分け 2回目(11/12) 3時間	現地WS(いづれかの午後) 3回目(11/19-26-12/3)	撮影・講評会+全員での撮影 4回目(12/10) 3時間
赤岩 里紗	佐賀県にある歴史的建造物	佐賀県 [11/26 7:45~9:00]	築山古墳	⑦
安部 千尋	佐賀県の部分を中心に	佐賀県 [11/26 7:45~9:00]	上瀬池(おつうこ)	①
安藤 光汰	勝海舟一行のルートについて	野津原 [12/3 7:45~9:00]	名水スポットor野津原宿	① 野津原御茶屋
安藤 充隆	野津原町の参勤交代道路	野津原 [12/3 7:45~9:00]	野津原神社(加藤神社)	②
池田 光樹	徳心寺(日本人物志)について	鶴崎 [11/19 7:45~9:00]	海舟日記・句碑(大御代~)	③
上原 成	清正公が整備した歴史的街道	野津原 [12/3 7:45~9:00]	七つの瀬(七瀬川の渡し)	③ 一の瀬
浦田 星奈	佐賀県の史跡について	佐賀県 [11/26 7:45~9:00]	中の原古墳(なかのはるかみん)	⑥
岡林 海星	法心寺と毛利空桑	鶴崎 [11/19 7:45~9:00]	毛利空桑記念館	④
奥濱 映登	肥後街道について	野津原 [12/3 7:45~9:00]	矢貫の石橋	④
小野 翔平	佐賀県のことを中心に	佐賀県 [11/26 7:45~9:00]	人が通って固められた道(有楽町)	④
加藤 来望	早吸日女神社	佐賀県 [11/26 7:45~9:00]	早吸日女神社	②
川崎 廣斗	海舟龍馬思索の道について	野津原 [12/3 7:45~9:00]	参勤交代道路(今市石置)	⑥
北原 英弥	地域の歴史について	鶴崎 [11/19 7:45~9:00]	法心寺(イチャツの木伝説)	⑥
国武 留蔵	海舟日記について	野津原 [12/3 7:45~9:00]	海舟日記	⑤ 墨水の三楽碑
熊谷 真菜見	鶴崎と肥後街道の歴史	鶴崎 [11/19 7:45~9:00]	御茶屋跡(鶴崎城・吉岡氏)	⑦
倉盛 翔守	幕末の状況について	佐賀県 [11/26 7:45~9:00]	教養寺※	⑧

図3 グループ分け・担当表(抜粋)

3-3 (3回目:2コマ) 現地ワークショップ

グループ毎にスクールバスにて担当の場所へ直接行き、地物・遺構について学生自身が説明する動画を収録

「海舟・龍馬思索の道」映像制作スタート(鶴崎コース)

授業・研究



1年生通年科目「プロジェクト1」では6つの課題が用意されており、それらのうち2つの班を選んで環境・地域創生活動に取り組みます。祭り活動E班では、まちづくりに役立てるための映像制作がテーマです。「海舟・龍馬思索の道」について考えるプレワーク・発表会を踏まえ、履修学生全員で分担し、担当の場所(見せ場)をレポートする映像を3週間かけて取材します。今回は、鶴崎コースです。カメラの前で緊張しつつ納得がいくまで何度もリテイクしている姿を見てみると、地域の歴史文化を学んだ学生たちが、知識をしっかりと自分のものにして、カメラの向こうにいる視聴者へ全力で伝えようとしている意欲が感じられます。撮影を終えた後の学生たちのホットしたような何かをやり遂げたような充実した顔を見て、若者はこのようにして成長していくのだなと実感しました。(近藤・江越)



図4 グループ1(鶴崎コース)取材の様子(註1)

「海舟・龍馬思索の道」映像制作2週目 (佐賀関コース)

授業・研究



佐賀関ボランティアガイド協会 後藤 英文 氏のご案内により「海舟・龍馬思索の道」佐賀関コースのフィールドワークを実施しました。

上浦港（うわうらこう）からロケーション撮影を開始し、早吸日女神社、徳応寺と、ここまでは江戸時代から遺る街並みを堪能しながら順調に進んだのですが、有屋峠から虎御前峠（とらごせとうげ）に至る、有史以前から人が通って固められた山道の探検はかなり困難でした。

その後、西谷橋、中原古墳（なかのはるこふん）、築山古墳、教尊寺、馬場古墳と、ハイエースで巡るにはいささか無理のある細道ばかりでしたが、古い本物の街道（かいどう）は崖っぷちもあり、狭いところで幅30cmくらいしかなく、いくら日本のため生きて長崎へ到達しなければならないためとはいえ、勝海舟の一行はこんな道を長崎まで歩んだのか！と思うと、気が遠くなりました。

このような経験はもったに得られるものではありません。参加した学生たちは、ほんとうに貴重な体験をしました。私も、おそらく生涯忘れないことでしょう。

先週に実施した鶴崎コースの様子もご覧ください。（近藤）



図5 グループ2（佐賀関コース）取材の様子（註2）

「海舟・龍馬思索の道」映像制作3週目 (野津原コース)

授業・研究



戸次 富造 氏ほか野津原ボランティアガイドの皆さまにご案内いただき、肥後街道沿いに、野津原茶屋、加藤神社、一の瀬、矢貫の石橋、今市の石畳、丸山神社等を訪ねました。学生たちは、担当する名跡についての事前調査を踏まえ、それぞれ現地にて30秒ほどの説明を収録しました。

これまで3週間かけて合計24箇所を巡り「海舟・龍馬思索の道」の紹介ビデオを制作してきました。次週は、いよいよ試写会です。（近藤・木村）

佐賀関コースの様子

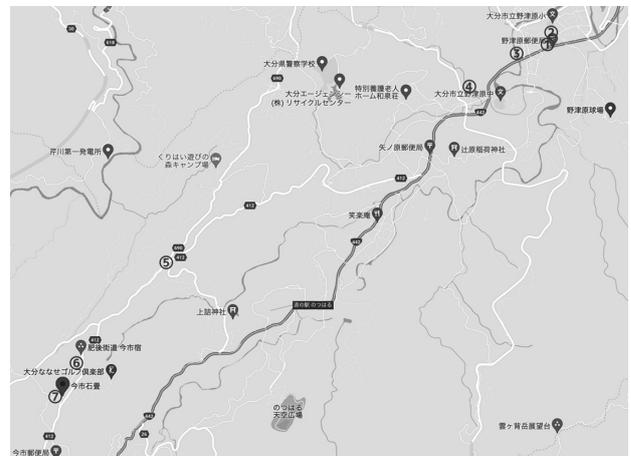


図6 グループ3（野津原コース）取材の様子（註3）

3-4 （4回目：2コマ）視聴・講評会・全員でオープニングとエンディングの収録

グループ毎に収録したファイルを一本の動画に編集し、映像を全員で視聴するとともに、オープニングとエンディングの収録を全員で実施した（図7）。

納品前に完成品を視聴し、これまでの取り組みを振り返り、レポート②にまとめることで成長を自覚させることを宿題とした。

なお、成績は、事前のアクティブ・ラーニングである「レポート①」および、取り組みの振り返りである「レポート②」の内容にて評価した。



図7 オープニングとエンディング収録の様子

4. まとめ（指摘事項に対する回答）

本事例は、「令和3年度教育・研究改革推進事業」の助成を受け、大分県内の地域を対象とした実践的な教育の取り組みとして実施した。したがって、選定結果の通知に審査員のコメントとしていただいた指摘事項に対する回答をもって、まとめに代えさせていただく。

4-1 （指摘1）学生がどのように成長したか、確認できるとよい

今回の目的の一つ目が「学生の成長」であり、以下の検証をもって回答とする。

- ・出席率：すべての授業および実習において、不登校気味の学生を含め、出席率は100%だった。
- ・取組み：外部協力者の情熱に影響を受け、全履修学生が能動的な学習態度となった。
- ・理解度：程度の差はあれども、全員が授業の意義を理解して課題に向き合っていた。
- ・提出率：参加した24名全員が、全課題（調査・映像編集・振り返り）を提出した。
- ・成長率：課題①と②の採点で1割以上の向上がみられた学生は8名おり、平均点は約3%向上した。また、①と②の相関係数は0.43、p値は0.04 (>0.01) にて、有意差ありと判断できる。

4-2 （指摘2）類似の教育への継続した波及効果へどうつなげるのか

今後、コロナ禍の影響もあり動画による課題提出が一般的になると思われるため、建築学科でも1年生の段階

から動画制作に慣れさせることに意義はあると考える。

4-3 （指摘3）なぜ建築学科なのか

本事例では、建築学科の学生たちが地域の歴史に興味をもち、自身の言葉で表現することを目的としている。また、地域連携の中で共同作業の推進力は、建築学科の学生にとって重要な能力であると考えている。ただし、以上の目的に対し動画制作はあくまで手段であり、動画のクオリティは求めず評価の対象としないこととした。

4-4 （指摘4）事前の下見等はしないのか

プロジェクト1まつり活動E班の枠組みの中では事前の下見ができる時間的余裕がなかったため、補完する意味で、文献等による事前調査を課題①として課した。

4-5 （指摘5）顕彰講演会が今の時期、可能か不明

この件については、プロジェクトの実施期間中を通じて実現の目処は立たず、社会状況の改善を願うよりほかにすべはない状況であった。

4-6 （指摘6）地域の期待に応える効果について

協力いただいた四協会に令和3年12月10日の視聴・講評会に参加していただいた。協力者全員が、学生の取り組みを見て感心し、心から喜んでくださったことが何よりの効果であったと考えている。

謝辞

本文中に述べたとおり、本事例は「令和3年度教育・研究改革推進事業」の助成を受けて実施しました。本事業に参加し精いっぱい取り組んでくれた学生たちおよび本事業の企画発案者である野村氏には地元の代表者として本事例報告の内容について事前確認をいただきました。取り組みを通じて、お世話になったすべての皆さまに、深く感謝申し上げます。

註

(1) グループ1（鶴崎コース）の訪問先リスト

（実施日：令和3年11月19日）

①大野川（渡し跡）

（解説担当者：建築学科1年 田中 悠一郎）

②剣八幡宮

（解説担当者：建築学科1年 小島 和真）

③海舟日記・句碑（大御代～）

- (解説担当者：建築学科1年 池田 光樹)
- ④毛利空桑記念館
(解説担当者：建築学科1年 岡林 海里)
- ⑤法心寺(楼門)
(解説担当者：建築学科1年 後藤 茉依)
- ⑥法心寺(イチョウの木伝説)
(解説担当者：建築学科1年 北原 英弥)
- ⑦御茶屋跡(鶴崎城・吉岡氏)
(解説担当者：建築学科1年 熊谷 真菜見)
- ⑧御茶屋跡(肥後藩鶴崎支庁)
(解説担当者：建築学科1年 小濱 航)
- (2) グループ2(佐賀関コース)の訪問先リスト
(実施日：令和3年11月26日)
- ①上浦港(うわうらこう)
(解説担当者：建築学科1年 安部 千尋)
- ②早吸日女神社
(解説担当者：建築学科1年 加藤 来望)
- ③徳心寺
(解説担当者：建築学科1年 栗田 一)
- ④人が通って固められた道(有屋峠)
(解説担当者：建築学科1年 小野 翔平)
- ⑤西谷橋
(解説担当者：建築学科1年 矢野 直人)
- ⑥中の原古墳(なかのはるこふん)
(解説担当者：建築学科1年 浦田 星奈)
- ⑦築山古墳
(解説担当者：建築学科1年 赤岩 里紗)
- ⑧教尊寺
(解説担当者：建築学科1年 倉盛 翔守)

- ⑨馬場古墳
(解説担当者：建築学科1年 森 翔太郎)
- (3) グループ3(野津原コース)の訪問先リスト
(実施日：令和3年12月3日)
- ①野津原宿(野津原御茶屋)
(解説担当者：建築学科1年 安藤 光汰)
- ②野津原神社(加藤神社)
(解説担当者：建築学科1年 安藤 充隆)
- ③七つの瀬(七瀬川の渡し・一の瀬)
(解説担当者：建築学科1年 上原 成)
- ④矢貫の石橋
(解説担当者：建築学科1年 奥濱 映登)
- ⑤海舟日記(湛水の三渠碑)
(解説担当者：建築学科1年 国武 留意)
- ⑥参勤交代道路(今市石畳)
(解説担当者：建築学科1年 川崎 廉斗)
- ⑦丸山神社(楼門)
(解説担当者：建築学科1年 藤岡 蓮)

参考文献

- (1) 久多羅木儀一郎：『豊後鶴崎町史』，鶴崎町，1937
- (2) 安部光五郎：『鶴崎地方歴史年表』，鶴崎地方歴史年表刊行会，1976.9
- (3) 佐賀関街道編集委員会：『佐賀関街道：関往還』，佐賀関町教育委員会社会教育課，1994.3
- (4) 山田宇吉：『佐賀関史』，山田宇吉，1925
- (5) 豊田寛三ほか：『大分市の昭和：写真アルバム』，樹林舎，2016.11

(2022年12月19日受理)